



「動く広告塔」として和田勇氏を顕彰

「動く広告塔」ラッピング披露

御坊南海バスが9日から運行

1964年の東京オリンピック誘致に貢献した御坊市名誉市民第1号の和田勇顕彰会(会長・吉田擴御坊商工会議所会頭)が平成30年度新規事業で実施した路線バスへのラッピング広告お披露目式は8日、市役所前駐車場で行い、柏木征夫市長や吉田会長ら関係者30人が出席。御坊南海バス㈱の協力で市内、郡内を走る路線バスの右側側面に和田勇氏の写真などを入れたラッピングを施しており「素晴らしい」と好評。9日から運行し「動く広告塔」として和田氏の顕彰にひと役買う。

和田勇顕彰会

お披露目には同社から那須敏明社長、上田裕紀取締役。市から柏木市長、龍神康宏副市長。顕彰会から吉田会長、川瀬和男、阪本仁志両副会長、岡本恒男事務局長らが出席。ラッピングは右側側面の窓枠下に施し、大きさは高さ1・3メートル、幅8・55メートル。きれいな青空をバックに運転席下には高さ1・2メートル、横90センチの和田氏のカラー写真を入

れ「東京にオリンピックを呼んだ男」御坊ゆかりの国際人「御坊市名誉市民第1号和田勇」の文字を大きく入れている。柏木市長は「見事なラッピングを施していただき、本当にありがたい。これなら目立つし『動く広告塔』として、より多くの人に和田氏の功績をPRできる」、吉田会長は「素晴らしいラッピングにしてください

感謝します。和田氏の顕彰に大きく貢献していただけるものと確信しています」。岡本事務局長は「思っていた以上の出来映えで、本当にうれしい」と喜んでいました。

那須社長は「地元にご貢献し、皆さんのお役に立つことをモットーに仕事をしているので『動く広告塔』の話をいただけたのは本当にありがたかった。個人的にも和田勇氏、正子夫人がいなければ1964年の東京オリンピックは実現していなかったし、東京オリンピックがなければ今の日本もないと思っているので、こうして顕彰活動に参加でき、感謝しています。より多くの人に和田勇氏の功績を知ってもらえる一助になればうれしい」と話した。

バスは9日から市内や印南町など郡内の路線を走行している。JR御坊駅や国道42号など通行量、人通りの多い路線を中心に運行するという。ラッピングの契約は2020年の東京オリンピックまでの2年間だが、那須社長は「2年間と言わず、このバスが動かなくなるまでラッピングは続けます」と話した。

顕彰会はラッピングのほか▽日高高校生徒の協力

で和田勇氏の紙芝居を制作し、市内の公私立幼稚園、保育園に配布▽クリアファイルの増刷、ポケットティッシュペーパーなどPRグッズの製作▽11月17日に市民文化会館小ホールで顕彰イベント「和田勇を考える(仮称)」を開き、講演会や朗読劇を行う▽横断幕やポスターを制作し、JR御坊駅構内に設置▽NHKやマスメディアなどに顕彰事業の情報発信——など行う。